12月14日の朝、雪が降り、あっという間に一面の銀世界になりました。ほんの2ヵ月前はまだ小淵沢の紅葉は一部で、高いところだけが華やかに染まっていたのです。

今回はその紅葉真っ盛りの蓼科山に登った報告です。私たちのフィールド、八ヶ岳の一番北側に位置する山ですが、13年住んでいてその山頂に立っだのは初めてでした。岩が多く登るのには苦労しましたが。雲が切れて下界が見えた時、眼下に広がる紅葉は素晴らしかったでず。

北の名峰・蓼科山
霧に煙る双子池

10月8日　蓼科方面に車を走らせると雄大な八ケ岳連峰が横たわっているのが見渡せます。その一番北側にお椀を伏せたように聳えているのが蓼科山です。小淵沢でペンションをやろうと決めてから、八ヶ岳のかなりのルートは歩いたのですが、この蓼科山へはなぜか行く機会を失していました。

「八ヶ岳歩こう会」の10周年記念事業の「八ヶ岳登山」その5回目がこの蓼科山。第1回目の横岳がちょっとハードだったので、他の回は見合わせていたのですが、今回の蓼科山はいくつもあるルートのうち、一番短時間で登れるルートで行くとのこと。全行程にかかる予定時間も6時間と他の回に比べ短い方です。もともと超スローペースな私と、10年前に大病をして以来本格的な登山から遠ざかっていた周平の2人。皆の足手まといになるかな・・・という不安は感じつつも、思い切って参加させてもらうことにしました。

大河原峠に着く

午前5時半、風路から車で5分の「スパティオ小淵沢」集合。まだ暗い中「歩こう会」の山男・山女の面々が30名ほど集まっていました。5台の車に分乗して、白樺湖から女神湖へ向かいました。蓼科スカイラインに入り、グングン高度をあげていきます。小淵沢出発時は雨が残っていましたが、予報通りだんだん空が明るくなってきて、蓼科高原のどこまでも続く深い樹海が見渡せるようになってきました。紅葉まっさかりの谷を見て車内から歓声があがります。

蓼科スカイラインを30～40分走り、午前7時すぎ蓼科山の登山口の大河原峠に着きました。道路脇には十数台は停められる駐車スペースがあります。ここは以前ペンションの仲間を誘って、池めぐりハイキングをしたときの出発点でちょっとなつかしい。この峠に建つ大河原ヒュッテ脇から蓼科山へ向かう登山道が開けています。

初めから急登

午前7時30分、簡単なストレッチの後、樹林の中の登山道に入りました。登山道は始めからきつい登りです。短時間で登れるということはこういうことか・・・と、納得。ゴロゴロの石と岩の道で石が雨に濡れていて滑り、歩きづらいこと夥しい。深い樹林の中なので展望はそれほどありませんが、時折振り返ると鮮やかな紅葉が目に飛び込んできて、「わーきれい」としばし登りの苦しさを忘れます。所々木々の間から正面にどっしりと聳える蓼科山や北八ヶ岳の峰々が見えます。

1時間半ほど登っていくと蓼科山山頂直下の将軍平に建つ蓼科山荘に着きました。ここから先は蓼科山頂へ直登する岩が折り重なった登山道です。

山頂は岩塊の原

山頂への最後の登りに入ります。大きな岩の道をよじ登っていくと、だんだん大きな木が少なくなってきて、ゴロゴロの岩ばかりの道に変わってきます。下りに備えて持ってきたダブルストックを登りのときも使っていたのですが、両手で岩をつかむのに邪魔だと見て取ったリーダーの一人、ケンさんが持ってくれました。お世話になります・・・

やっと蓼科山頂の一両に建つ蓼科山頂ヒュッテに着きました。午前9時35分、山頂に到着。岩の広場のようです。そのほぼ中央に山頂の標識が立っていました。私達が山頂に立ったときにはガスが立ちこめてきて四方の展望は望めませんでしたが時折ガスがさーっと晴れて周りの山々が見えてきます。その瞬間に「あっあれが槍」とか「穂高？」とか言い合いました。晴れていればどこまでも果てしなく続く紅葉に彩られた樹海が広がっていたでしょうが、それはまたいつか。

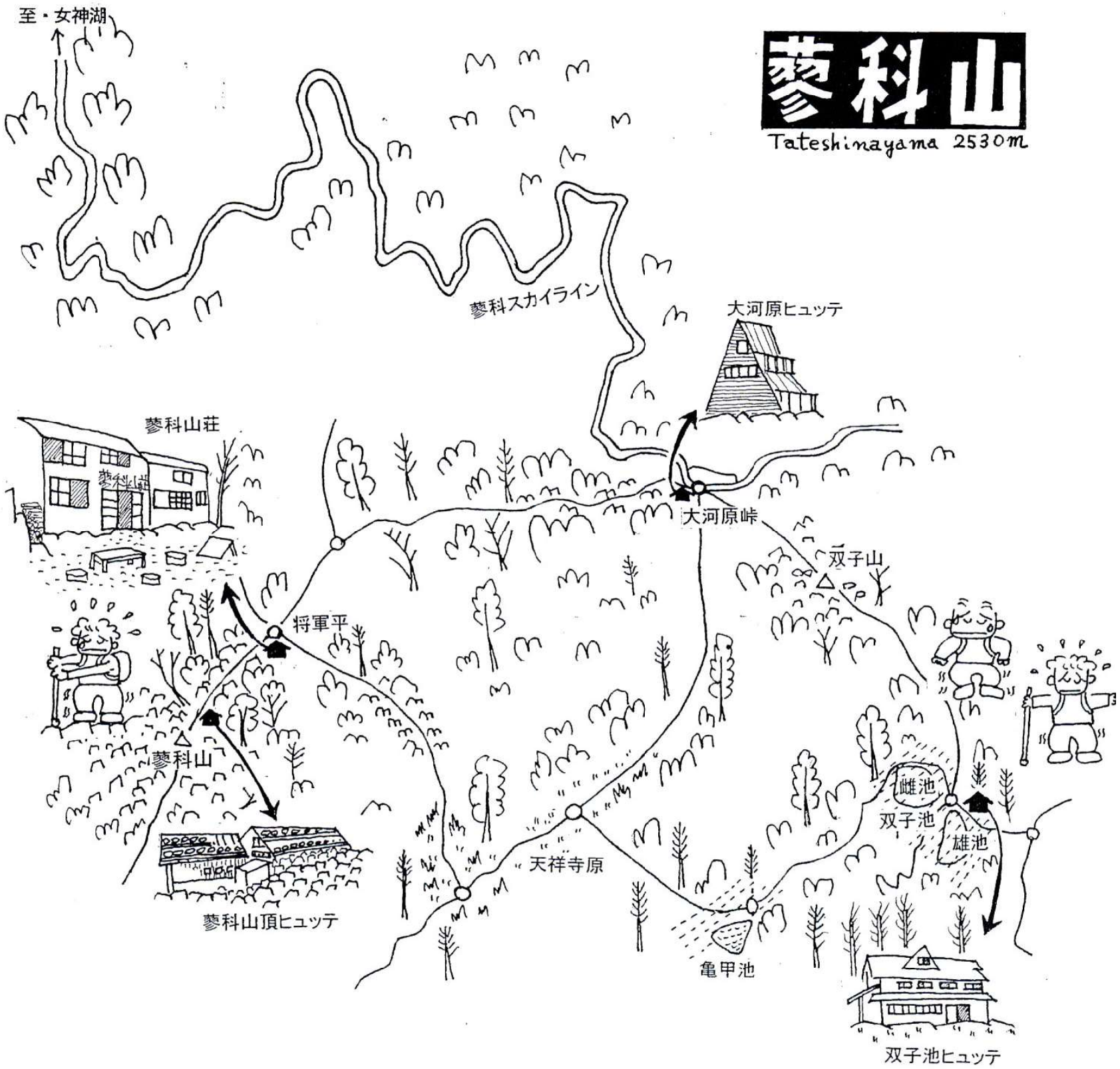
ゆっくりで大丈夫

さあ、苦手とする下りです。山頂ヒュッテから蓼科山荘までで早くも遅れをとって最後尾の人の影も見えなくなっています。ここでもケンさんが後についてくれて心強い。

「道は一本道ですからマイペースで歩いて下さい、ゆっくりで大丈夫です」く～っ、ありがたいそのことば！　さらに頼もしい山女Mさんも「私もこのペースがいいわ」と一緒に　　うらへつづく

甲州街道ウォーク　佳境に入る巻

以前報告した八ケ岳歩こう会10周年記念事業の甲州街道ウォーク。毎月1回、全15回で日本橋から下諏訪まで211キロを歩こうという計画です。今年の1月に始まってから順調に歩を進め、12月8日に甲府宿に到着しました。都心から遠くなるに従って参加者は減っていくだろうという予想は見事に裏切られ、今もI00名前後の方が参加して下さっています。あと5回で下諏訪。昨年の今頃はゴールははるか遠く感じたのですが、今はもうそんな気分ではありません。いよいよ私達のフィールドに近くなってきて、八ヶ岳や甲斐駒ヶ岳を見ていただけるのも楽しみです。参加された方から歩こう会会員のチームワークの良さを誉めいただき、それもうれしかったでず。その理由の一つはウォーク後の熱心な「反省？会」にあるという噂もチラホラ？最後の下諏訪での打ち上げは一体どうなるのかと楽しみなようなコワイような・・・



表からつづく

歩いてくれて、なおさら勇気付けられます。かなりのところまでゴロゴロの石が積み重なって沢のような道を下っていきます。しばらく下ると道はやっと少し平坦になって周りのシラビソやナナカマド、ビフカバなどの樹林の中の道に出ました。辺りは樹林と笹原の明るい道です。それでもまだ、道が笹で覆われ、見えないところに石や水溜りや木の根があり、気が抜けません。ふと前を見ると先頭を行っていたリーダーが心配して待っていてくれました。その少し先の単原の広場になっているような所では先に着いた一行が既にお昼を食べていました。なんとかみんなと一緒にお弁当を食べることができ、元気回復！

紅葉の中の道

この道を真っ直ぐ進めばきょう歩き始めた大河原ヒュッテへ続きます。今回は直進せず右に曲がり、亀甲池～双子池を目指します。亀甲池までは少し登ればあとは割合平坦な道で回りの紅葉の本々を眺めながらのトレッキングです。

亀甲池はこの時期は水量が少なく、池の端は砂地が現れていてそこまで降りて周りの木々の紅葉を楽しむことができました。双子池までの道は苔むした鬱蒼とした樹林の中。だんだん疲れてきて、ちょっとした登りでも自主休憩・・

双子池につく頃から濃いガスが立ちこめてきて、池のまわりの紅葉はほとんど見ることができませんでした。

最後がこたえる!!

双子池からは大河原峠まで最後の登りです。この最後の登りがきつかった。以前に逆からこの道を下ったことがあり、そのときはそれほどとは思わなかったのですが蓼科山を登った後だったこともあり、喘ぎながら双子山まで登り、痛み出した膝を引きずるようにやっとのことで大河原峠まで戻りました。予定を大幅に超え、1時50分到着予定が3時15分でした。

念願だった蓼科山はなだらかな形とはうらはらに岩がゴロゴロでなかなか手ごわい山でしたが、「歩こう会」の仲間たちに励まされてなんとか登ることが出来ました。

深い樹海とゴロゴロの岩の山頂、静かに佇む池、池面を流れる霧・・・、これからは眺めるたびに蓼科山の頂上とまわりの情景を思い浮かべることと思います。